

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671400196	
法人名	京都南山城会	
事業所名	グループホーム山城ぬくもりの里	
所在地	京都府木津川市山城町上狛小杉谷6番地	
自己評価作成日	平成25年11月11日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホームと隣接して建てられているため、医療、看護、介護の連携がとり易く、安心、安全な暮らしが送れている。敷地はゆったりとしたスペースで、玄関をはさんで2ユニットがあり、ご利用者様はどちらでも移動して過ごすことができ、中庭や、裏の畑では、季節の花や、野菜、などを楽しむことができる。趣味のサークル活動も多く参加でき、それぞれ好みの趣味を楽しまれている。家族会のご協力もあり、ご利用者様との行事や、グループホームの運営にご協力いただき、家族的雰囲気、暖かいグループホームとなっている。法人のバックアップにより、職員の質の向上にむけ、内外の研修に多く参加しており、職員の離職率が低い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR奈良線上狛駅から車で20分、かなりの高台にあり、付近には同法人の特養、ケアハウスがあるものの、人家はない。開設して満9年になり、地域との関係づくりに苦慮しているグループホームである。山城の四季の風景が存分に満喫できる立地であり、和風平屋のホームはゆったりとしている。木製のベランダが建物の周囲にあり、お茶をしたり、遠くの火花を見物している。毎年の家族旅行は利用者と家族のイベントであり、誕生日会は利用者の希望する外出や外食、買い物等、クリスマス会は家族と職員がつくったクリスマス料理、サンタからプレゼントをもらう賑やかな会等、家族は面会も多く、ホームの運営に協力的である。職員は純粋、まっすぐ、明るく前向きで意欲あり自発的に本を読むなど、勉強家であり、日々のケアでの気づきが多く、利用者をよくみている。看取りの経験等、重度化は否めないものの、そのなかで個別ケアを目指しており、うどん屋を営んでいた利用者へうどんをつくってもらったり、短歌サークルで歌をつくっていた利用者の短歌の投稿を支援したりしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	支え合い微笑みあって安心して住める家～今日も笑顔で家族のように～という理念のもとに、皆で共有し、常に意識して実践している。	「支えあい、ほほえみあって、安心して住める家」という理念を開設時の職員が話し合って策定し、玄関、居間等に掲示している。毎年見直しをし、理念をもとに事業計画を作成、利用者や家族に報告している。カンファレンスでは対応策よりも利用者の思いを探ることを中心にしていることが理念の実践と考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物には市内のスーパーに出かけたり、地域の商店に配達してもらっている。、運動会や入学式等の地域の行事に参加している。	自治会加入をし、『木津川市町報』が配布される。隔日に加茂町や精華町のスーパーへ利用者と一緒に買い物に行く。スカイフェスティバルに利用者の作品と模擬店を出している。利用者のお孫さんのピアノ演奏会や木津川市カルタ大会にも利用者が参加している。近くの上粕小学校の運動会や入学式、卒業式に参列するのは利用者の楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や商店に出掛けてはいるが、認知症の理解や支援の方法をどこまで地域の方に向けて活かしているかは不明である。年一回の法人での夏祭りの開催により、地元住民は施設のことをかなり認識していると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、会議では現状の報告を行い、各メンバーから意見を頂き、サービス向上に役立っている。	家族、民生委員、市高齢介護課が委員となり、隔月に開催し、記録を残している。グループホームから利用者の状況や事故、行事等の報告を率直にし、意見交換している。誤薬事故の対策やボランティアの紹介等、意見をもらっている。	運営推進会議は地域の事業所としての位置づけとして、警察署長、消防署長、買い物先のスーパーの店長、小学校校長等々、地域資源の人たちにゲストメンバーとして参加してもらい、事業所や認知症の理解を深めることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃は特に連絡をしていないが、困ったときやわからないことがあると連絡させて頂いている。	市の担当者とは日常的に報告・相談しており、連携がとれている。最近は住所地の問題が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロについては、法人一体となって取り組んでおり、意識も高く身体拘束は一切していない。 安全の為、17時から朝8時までは玄関に施錠している。	需要事項説明書に身体拘束をしないケアをうたっており、マニュアルを作成し、身体拘束委員会が職員研修を実施している。委員会では毎年アンケートを実施しており、「実際拘束になったことはないか」「利用者がじっと座っているのをどう思うか」「他人の介護をみて拘束だと思ったことはないか」「ストレスをどう回避しているか」等の質問により、職員自身の気づきを促すような取組をしている。門扉は施錠せず、屋内どこからでも敷地内には出られる。玄関ドアのみチャイムを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法案を学ぶ機会はないが、身体拘束ゼロ推進委員会でアンケートや見回りを定期的実施し、また勉強会を行うなど、虐待について常に考え、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会を持っていない。管理者は必ず研修にて学んでおり、必要に応じて活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時には時間をかけて十分な説明を行い、また、機会があるごとに、ご家族からの疑問点については、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営協議会において、ご家族からの意見は十分汲み取れていると思われ、また意見箱も設置しているので、上記会に参加されていない方の意見を汲み取る環境も用意できている。また、ご利用者及びご家族様へ年に一度、満足度調査を実施している。	家族には法人の広報誌『里だより』とともに、グループホームの広報誌『ほほえみ便り』を毎月送付し、職員異動の報告や行事案内等とともに、一人ひとりの利用者の様子を担当職員が書いている。家族は面会が多く、毎月来訪し、利用者と過ごしている。また夏祭り、クリスマス会、誕生日会、芋煮会等の行事にも参加している。年2回、夏祭りと年度初めに家族会を開催し、家族交流の機会としている。「最近太ってきた。食事の量が多いのではないか」等、家族は率直に意見を言っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回ではあるが、管理職と担当との面接の機会を設けており、意見しやすい環境を整えている。また、年度初めには各職員に目標の設定を行うように指導している。	毎月全員参加の職員会議を実施し、運営、ケースについて話し合い、研修を実施している。職員は2～3人の利用者を担当している。職員は異動や外部研修の回覧を見て受講希望を述べる事ができる。法人内研修はプログラムがあり、グループホームの研修は入浴・移動等のスキルや薬や病気等の医療等の研修を実施している。職員会議では職員は「排泄拒否のある利用者について、成功例と失敗例を出しあってはどうか」「冬は利用者の足が冷えるので温めてあげたい」等、意見を出しあっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価に基づき個々に面談を行い、代表者と話す機会を持ち向上心が持てるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に個々の能力、経験に基づき参加させ、会議で勉強会を持ち、日々のケアに活かせるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や委員会、行事を通じてではあるが、法人内の他グループホームとの職員とのネットワークはできている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートにより、心身の状態を把握した上で、御本人の希望など傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時に、ご家族様の要望などお聞きしながら、安心して頂ける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の状態を知り、まず必要とされる支援を見極め他のサービスを含めた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理や買い物など、家事を共に行い昔の習慣などお聞きしながら、共に助けあう関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様について、報告、相談を常に行いながら、ご家族の絆を大切に共に支えあう関係を築けている。行事の案内をし、できる限り参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも面会に来ていただくことができ、来られたら居室及びくつろぎスペース等で、ゆっくりと過ごして頂けるように、配慮している。	母の日にグループホームで撮った利用者の写真を貼ったポケットアルバムをプレゼントし、家族に利用者の子どもの時代からの懐かしい写真を貼ってもらい、利用者は折あるごとにアルバムを眺めて楽しんでいる。馴染みの人に会いに、馴染みの場所を訪問する等は実施していない。	利用者の子どもの時代、あるいは現役の時代、男性なら仕事場や仕事仲間、女性なら親しい友達、趣味の仲間、また遠くて長く会っていない姪や甥等、馴染みの人たち、伝統的な行事等、利用者の思いを探り、出かける等の支援が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格や、日頃の関わりの中で、ご利用者様同士が上手く関われるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院の為、退所された方であってもご家族様との連絡をとったり、お見舞いに伺っている。ホームへ入所された方にも会いに行ったり、ホームスタッフとの情報の共有に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、御本人の希望などお聞きしている。意思疎通困難な方は、日頃関わるなかで、御本人の希望を汲み取るようにしている。	利用開始時には利用者、家族、地域のケアマネジャー等から利用者の情報を得ている。アセスメントはセンター方式の一部シートを使用し、ADLとともに、舞鶴出身、木津川生まれで夫の転勤で福井に、夫は戦死、青果市場勤務、看護師、子ども2人等の簡単な生活史と和裁、歌等の好きなことが記録されている。「しんどい時はそばにいてほしい」「役に立ちたい」「自分でできることは自分でしたい」等、利用者それぞれの思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入所時に、ご家族様に記入していただいている。その中で、御本人様の暮らし方、サービス利用に至った経過など、把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴に加え、日々の関わりの中でできること、支援の必要な部分などを把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制により、ご利用者様、ご家族様と課題やケアについて話しをし、カンファレンスにより、ケアプランに活かすようにしている。	利用者の思いにそってユニットリーダーが介護計画をたてている。「グループホームに慣れる」「自分の力で生活する」「行事や楽しみに参加する」等、利用者それぞれで前向きな介護計画であるものの、焦点化が不十分である。介護記録は介護計画にそって書かれていない。モニタリングは「介護計画の評価」「今後の方向」について毎月実施しているものの、介護計画の項目ごとに「介護の実施状況」「利用者・家族の満足度」についての記録がない。	利用者の個別ケアのためには介護計画を焦点化すること、介護記録は介護計画の項目ごとに介護を実施した際の利用者の表情や発言、介護拒否の際の理由等を記録に残すこと、モニタリングは介護計画の項目ごとに「介護の実施状況」「利用者や家族の満足度」を記録に残すこと、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアはカルテに記入し、職員間で、情報を共有し、実践している。介護計画の見直しはカンファレンスなどで話し合っ て行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況やニーズに対応し、外出や通院介助などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サークル活動の先生は、地域のボランティアの方がして下さっており、他には紙芝居をして下さる方もいらっしゃる。その方々と一緒に、ご利用者様の暮らしを支えあっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様それぞれのかかりつけ医と連携をとり、適切な医療が受けられるような体制となっている。	内科医が隔日に往診してくれており、また看護師は毎日利用者の様子をみている。グループホームでの情報を提供し、医師や看護師からの情報を得ている。認知症に関しても医師と連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日ホームから看護師がご利用者様の状態の把握にきており、適切な支援を受けている。医療連携日誌の運用により、より細かい情報をやり取りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時は病院の地域医療連携室と常に連絡を取り、ご利用者様の状態や今後について相談している。退院前にはほとんど毎回カンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの指針に基づき、ご家族様より看取り介護の署名をいただき、十分説明をしながら、かかりつけ医とも連携をとりながらチームで支援にとりこんでいる。	「重度化対応及び看取り介護指針」を策定し、重度化した場合、説明し、同意書をとっている。マニュアルを作成し、職員研修を年1回実施している。職員は経験者も多く、利用者を最期まで見てあげたいという気持ちをもっており、いままでの例でもきちんとした対応をしてきている。この1年は例がないものの、過去に経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はホーム看護師やかかりつけ医と連絡をとる初期対応の仕方を会議で確認している。応急処置についてはすべてのスタッフが身につけているとは限らない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を実施し、消防署との連携も図っている。 毎回不慣れなスタッフ(異動直後のスタッフや、新規採用者)が想定勤務者として参加できるよう配慮している。	消火器、感知器、通報機、スプリンクラー、防火管理者を備え、消防計画をたてている。年2回の避難訓練には消防署の協力を得ているものの、地域の住民の協力はない。地震や夜間、抜き打ちの避難訓練はしていない。備蓄は準備している。ハザードマップはない。	避難訓練は職員の身につくように、地震や夜間、抜き打ち等も含めて年6回くらい実施すること、ハザードマップを掲示し、職員が危険個所を認識しておくこと、以上の2点が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの尊厳を守ることを大切に、言葉遣いや対応に気をつけている。身体拘束ゼロ推進委員会でも取り上げている項目である。	ていねいなわかりやすい言葉で対応し、利用者になれなれしくすぎたり、プライドを傷つけたりしないように、また利用者のいるそばで職員同士のおしゃべりは禁止等の注意をしている。法人での接遇に関する職員研修をしている。意思表示の困難な利用者にも飲み物や衣類の選択をしてもらえるように、選択肢を示しながら、表情を読み取るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様お一人おひとりの思いに寄り添い、御本人の意思を引き出す声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースに合わせ、思いに寄り添ったケアに努めている。入浴予定日を変更したり、行事にも無理に参加させるようなことはしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は好みの店でしてもらっている。整容は自分で出来る方は自分でしていただき、出来ない方はスタッフが介助し、常に身支度を整えている。外出の時はいつもより、おしゃれして、出かけられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全て好みのものとはいかないが、できることはしていただきながら、スタッフと共に、準備食事片付けをしている。いろりは重度化により、できる方が少なくなっている。	朝食と夕食は利用者の希望を聞きながら職員が献立を立て特養の管理栄養士にカロリー値や栄養バランスを点検してもらっている。買い物、調理、盛り付け等、利用者と一緒に行い、おかわりにも応じている。昼食は業者から配達される献立と簡易食材を利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分摂取量の少ない方など重点的に摂っていただけるように支援し、チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けしたり、スタッフが介助し、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗や、オムツの使用を減らすため、少し早めの声掛けや、ご本人のリズムに合わせたトイレ誘導を行っている。	なるべくトイレでの排泄を、という方針のもと、排泄チェック表を記入し、パターンを把握し、声掛け誘導している。入院により状態が悪くなるので、なるべく早期退院を支援し、退院後改善を図るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘気味の方には、水分摂取や、乳酸飲料の提供など、個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めさせていただいているが、ご利用者様の希望や、タイミングにより、ずらしたり、柔軟に対応している。	浴室は広く、窓が大きく明るい。個浴に週2回を目標に支援しており、重度の人は2人の介助で実施している。希望する人には毎日でも支援している。同性介助であり、ゆず湯なども楽しんでいる。拒否のある人にはさまざまな工夫をしながら、入浴できないことがないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により、日中臥床していただく方もありますが、夜間は安心して良く休まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明を読み、理解して服薬の支援を行っている。また勉強会にて薬の目的、副作用等についても学ぶ機会をもっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのできることや、好きなことなどを把握し、日々の生活のなかで役割を持っていただいたり、趣味のサークル活動への参加、外出などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化が進み、全員参加は年1回の家族旅行や初詣ぐらいに減ったが、四季折々の外出を楽しんでいただいている。ご家族様にも声かけし、一緒に行っていただいている。日常的には、ホーム周辺の散歩や、買い物への同行ドライブがある。	ふだんは敷地内や近くの同法人の特養の庭などを散歩している。特に特養の庭は桜が見ごたえがあり、提灯を下げ、雰囲気を楽しむ。湧出神社への初詣、コスモス苑等季節の外出や買い物はドライブで出かける。奈良公園へ出かけ、バラ園を鑑賞し、買い物と食事を楽しむ等、ときには遠出をしている。クラシックの好きな人をコンサートに同行する等、個別の外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はなく、ご希望があれば、ご家族了解のもと立替えて購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話していただいたり、ハガキを出したりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全フロアバリアフリーとなっており、明るく開放的で、スペースもゆったりととってあり、中庭には季節の花を配置し、楽しんでいただいている。裏の畑や、テラスのプランターで野菜を育て、季節感を、目と味覚で楽しんでいただいている。くつろぎスペースには、ソファを設置し、自由に使用して頂いている。	門扉から式石を踏み、和風玄関を入ると、正面に利用者と職員の努力の結晶のような小さな紙玉を貼って描いた金閣寺の大きな額がかかっている。ユニットの玄関である格子戸を開け、居間兼食堂までの廊下から中庭が見える。居間兼食堂はキッチンを備え、新聞や雑誌、タイル細工のカレンダーや手作りの日めくりが生活感を出している。椅子とテーブルを並べたコーナーは一人や気の合った人との場所となっている。ベランダに出ると敷地内の畑の作物が見え、夏には遠くの花火を鑑賞することもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で過ごすことが一番安心されているが、ご利用者様のお好きな場所で過ごして頂けるようソファなどを配置し、両ユニットを自由に散策していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの家具などを持ってきていただくよう声かけしており、御本人が安心して暮らせるよう工夫している。	居室は洗面台、襖で開ける押入れ、ベッドが備えられ、障子戸を開けるとベランダに出ることができ、山城の四季の風景を見ることができる。利用者はたんす、衣装かけ、椅子等を持ち込み、絵やタペストリーを壁にかけている。筆筒の上の小さな人形が利用者らしさを感じさせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアバリアフリーで、要所要所に手すりを設置しており、ご利用者様の状態に合わせ、安全に移動できる力を継続していただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	支え合い微笑みあって安心して住める家～今日も笑顔で家族のように～という理念のもとに、常に意識して実践している。	いろいろユニットに同じ。以下同様。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物に市内のスーパーに出かけたり、地域の商店に配達してもらっている。 運動会、入学式、コンサート等、地域の行事に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回法人として夏祭りを開催し、地域の方に来て頂き、楽しんで頂いている。 毎月地域のボランティアの方による紙芝居をご利用者は楽しみにしておられる。 小学生、保育園児との交流を楽しまれる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者様の状況報告、行事報告、課題等について、意見交換し、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営協議会での意見交換、居宅支援事業者を通してサービスに活かせる情報を得たり、解らない事を聞く機会となっている。 社会福祉協議会に、ご利用者様の権利擁護や、自費のヘルパーを利用される際の調整をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会が毎月開催され、全職員のアンケートや勉強会等、常に身体拘束ゼロの介護に努めている。 安全の為、17時～翌朝8時まで、玄関を施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底	身体拘束ゼロ推進委員会の活動で、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ推進委員会の活動で、アンケートを定期的に行ったり、全体会議での勉強会を行うなど、虐待について常に考え、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は勉強会をおこなっていない。実際に利用されている方もおられ、必要に応じて関係者との話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明を行い、解約に関しても、事前に説明の機会を持ち、十分な検討を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営協議会の開催、意見箱の設置、満足度調査、ご家族様が来られた時の話し合いなどにより、ご家族様の意見をお聞きし、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談、月1回の職員会議で意見を聞き検討しており、それ以外にも随時、意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価＋個人面談により、直接代表者と話す機会を設け、向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に個々の能力、経験に基づき参加してもらっている。また職員会議の際に勉強会を持ち、日々のケアに活かせるように努めている。今年度は認知症ケア研修に全職員が参加し、質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ部会やブロックの勉強会、事例研究発表などに参加し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主に計画作成担当者が行っており、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に計画作成担当者が行っており、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の暮らしの中での悩みや希望を聞かせて頂き、必要なサービスを提供するよう努めている。相談内容は記録している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や裁縫など教えて頂く事も多く、共に暮らす家族のような関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者についてはご家族に何でも報告し、相談させていただいており、いつでも気軽に来いただき共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人内に昔なじみの方がおられる場合に交流を図ったり、馴染みの場所に出かけるなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や趣味を把握し、また得意な事を活かせるように席を工夫したり、関係がうまく築けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には、その後の様子をお聞きしたり、他施設入所の方には訪問、入院された方にはお見舞いに伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりから、ご本人の思いや意向を引き出せるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族に記入していただいている他、ご本人からも聞き取りを行い情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を読み、自分自身でも関わり、観察を行なう事で状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いの場を持ってご本人の希望や意向を聞きだすのは難しく、カンファレンスも職員のみ参加であるが、面会に来られたときにご家族の意見もお聞きして介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテや行動実施表に毎日記録して、情報を共有し実践している。毎月末に評価し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて柔軟に対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、手芸、短歌などのサークル活動や、夏祭りで協力して頂いており、ご利用者の方々と共に楽しませている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に沿って、地域のかかりつけ医や歯科の往診にも来て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師と連携体制ができており、毎日ご利用者の状態を報告し、必要な看護や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も、出来るだけ早く退院できるように、ご家族や病院関係者と相談・連絡を取り、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、入所時に説明している。状態により主治医を含めて話し合いを行い、方針を共有している。その上でチームケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施していないので全ての職員に応急手当や初期対応の実践力は身につけていないと思うが、随時、消防の救命士による普通救命講習会に参加している。内部研修や勉強会もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、消防署の指導のもと、昼夜の設定で定期的に避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守る対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定できる問いかけを行っており、選択や決定は任せている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースに合わせて過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容などは好きな店でできるように支援している。ご自分でできる方はお化粧品もされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも好みの献立にはなっていないと思うが、準備・食事・片付けは一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を把握し、必要な方には食事と水分の摂取量を記録して、個々に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じて、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、オムツを使用されている方はおられず、声掛けや誘導が必要な方は排泄パターンを知り、出来る所はご自分でしていただきながら、個々に合った支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量に配慮し、乳酸菌飲料も飲んで頂くなど工夫している。身体を動かしたり、歩行を促す声掛けも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	だいたい入浴日は決まっているが、希望によって変更も可能である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や希望によって休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を読み、理解している。確認もすぐにご覧できるように、ファイルに綴じている。服薬による状態の変化などはカルテに記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や好きな事を把握し、楽しく過ごせるように役割を持っていただいたり、サークル活動に参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望をお聞きしたり、馴染みの場所への外出を企画している。ご家族にも一緒に行っていただけるように声掛けもおこなっている。また個々にご家族と外出されることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は、お金は所持されておらず、買い物の時などは、好きなものを選んでいただき立て替えている。お一人の方は、ご自身で所持されており、日常の必要な物を購入する際に職員が支援しながら使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯をもっておられる方が1名、居室に電話をひかれている方が1名おられ、それ以外の方も希望があれば電話をしていただける。手紙のやりとりもあり、年賀状や絵手紙も出していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放的で段差はなく、皆で作成したタイル細工のカレンダーや季節に合った飾りをしている。テラスや畑には季節の花や野菜を植えて育てている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で気の合う方と過ごせるようソファや椅子を所々に設置し、テレビも設置した寛ぎスペースもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使いなれた馴染みのものを持参して頂くように説明し、安心して過ごせる居場所作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、安全に移動ができる。各居室には表札を設置しており自立した生活が送れるスペースを確保している。またトイレには「御手洗」と表示して分かりやすくしている。		